「潮騒」

小説家、三島由紀夫（1925〜1970年）の「潮騒」は、神島から着想を得た架空の島、歌島を舞台にした、古典的な少年と少女の禁断の恋物語です。 三島は、神島での時間の多くを、村の洗濯場のすぐ上にある寺田家から借りた家でこの作品を執筆するのに費やしました。彼は、ノーベル賞を受賞した作家、川端康成に宛てた手紙の中で、親密なコミュニティが存在し、大都市の悪習から解放されている島の生活を「本当の人間の生活」と呼びました。また、別の文章では、彼の仕事についてはよく分からないものの、青白く痩せた彼の姿から栄養不足を心配し、面倒を見てくれる地元の人々のことを書いています。 1953年初版の小説「潮騒」は、1954年に名誉ある新潮賞を受賞し、その２年後にThe Sound of Wavesという題で英訳が出版されました。物語の舞台となった場所の数々は、脚本化・アニメ化された作品の中にもよく登場します。この小説の人気は衰えることなく、これらの場所にファンを呼び寄せ続けています。